

共同研究(適応型) 気候変動による暑熱・健康等への影響に 関する研究

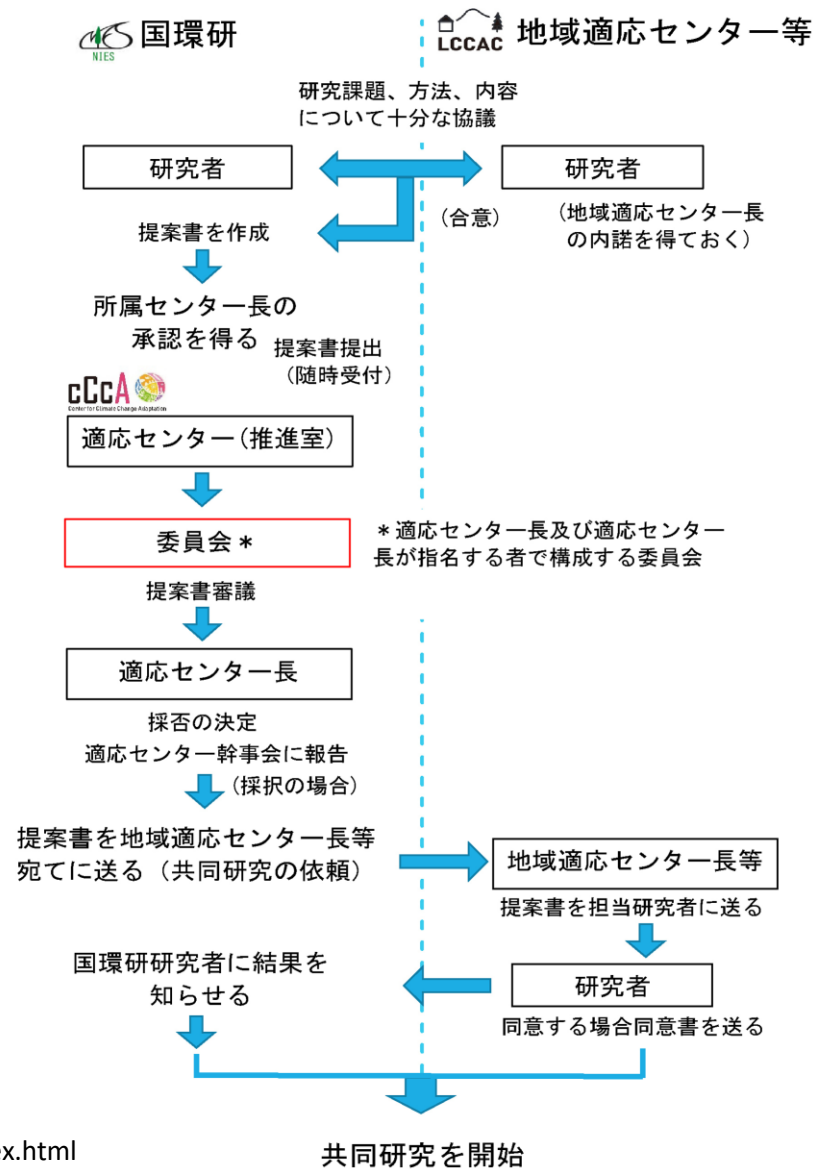
第5回気候変動適応中部広域協議会
議2021年3月5日

国立環境研究所 気候変動適応センター
気候変動適応戦略研究室 岡 和孝

1. 共同研究(適応型)

■ 内容

- 環境研究の発展及び気候変動適応法第11条に定める地域への技術的援助の一環として、「気候変動適応に関する**地域気候変動適応センター**等との共同研究」を実施（R2より）。
- 参加資格**：地域気候変動適応センター（設立準備を進めている組織を含む）
- 費用**：研究の分担に応じてそれぞれの研究者が所属する機関において負担。



1. 共同研究(適応型)

■ 課題名

- 現在下記の研究テーマを現在実施中（研究期間：R2年）。
- **暑熱適応研究については、次年度以降も実施に向けて調整中。**

	課題名	参加機関（地域適応C）
1	適応推進に資する科学情報提供に向けた共創プラットフォームの構築	長野県，大阪府
2	気候変動による暑熱・健康等への影響に関する研究（暑熱適応研究）	香川県，川崎市，静岡県，福岡県，神奈川県，栃木県，大阪府，愛媛県
3	気候変動影響検出を目的としたモニタリング体制の構築	長野県，静岡県
4	気候変動と都市化による河川の水温・水質への影響	千葉県

2. 気候変動による暑熱・健康等への影響に関する研究

■ 背景

- 都市部等においては、ヒートアイランドに加え、気候変動による気温上昇がみられる
→ ヒトの健康への影響（熱中症）→ 対策（適応策）が必要に
- 効果的な対策を実施するためには地域状況を把握する必要がある。
- 現状においては十分に把握されていない。
 - **気候情報**： 暑さ指数(WBGT)
 - **影響情報**： 熱中症搬送者数
- 地域状況を把握するための技術や知見が不足している場合もある。

■ 目的

- 地域状況を把握するための研究の実施
- 得られた知見を活用し、適応策検討のための基礎資料として活用

2. 気候変動による暑熱・健康等への影響に関する研究

■ 実施内容

- 当該研究においては下記①から④に関する活動を実施する。
- 本研究を令和3年度から予定している本格的な気象学的観測や熱中症搬送者数の収集・分析等の準備フェーズと位置付ける。

① 意見交換の場の設置

② 暑熱環境に関する気象学的観測の実施

③ 熱中症搬送者数データの収集

④ 熱中症搬送者数に関する研究

2. 気候変動による暑熱・健康等への影響に関する研究

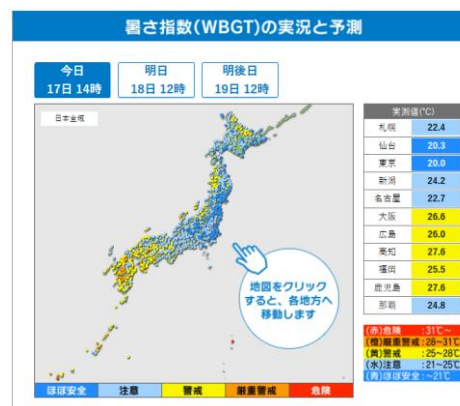
■ 実施内容

① 意見交換の場の設置

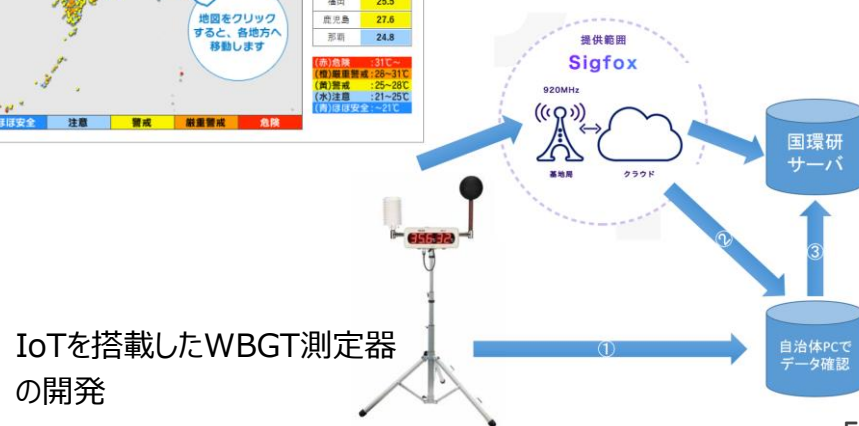
- 暑熱・健康に関する現況の課題や解決に向けた手法の検討，暑熱環境に関する気象観測及び熱中症搬送者数データの収集・分析等に関するノウハウ等を共有する場を設置。
- 全体会合の開催（3回を予定），メーリングリストの作成

② 暑熱環境に関する気象学的観測の実施

- 暑さ指数（WBGT）の観測を実施
 - ✓ 観測場所
 - WBGT観測の空白地
 - 特定の場所（学校，建物内）
 - 既存観測網を活用したWBGTの観測
- IoTを搭載したWBGT測定器の開発



環境省 熱中症予防情報サイト
11地点の実測値と
829地点の実況推定値



2. 気候変動による暑熱・健康等への影響に関する研究

■ 実施内容

③ 熱中症搬送者数データの収集

● 消防本部単位の熱中症搬送者数データ

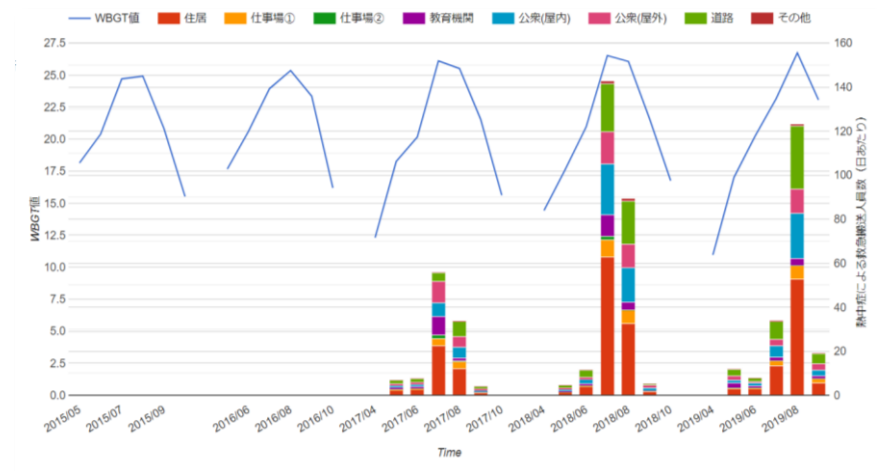
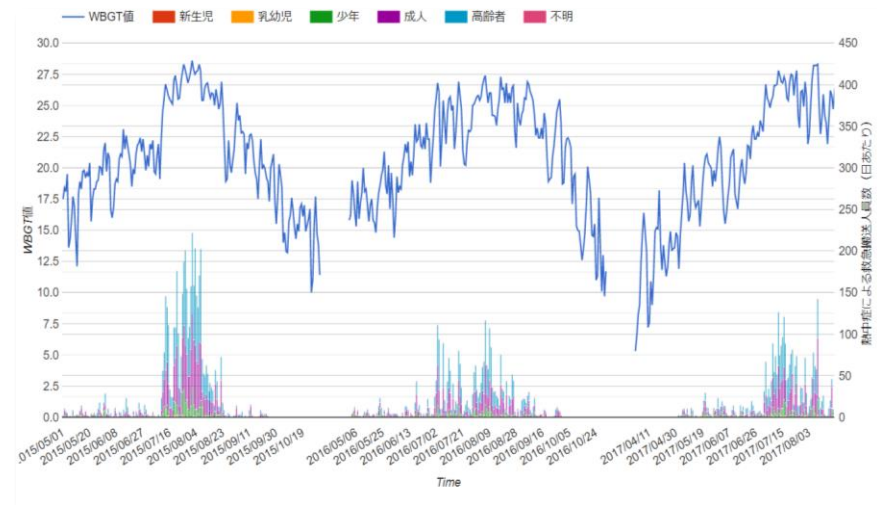
✓ 活用方法

- 地域適応計画作成のための基礎情報
- 普及啓発のための情報
- 現状把握、影響評価のための情報

● 地域データの発掘

● データ表示ツール等の作成

- ✓ WBGTと熱中症搬送者数を示すインタラクティブなデータ表示ツールの作成.

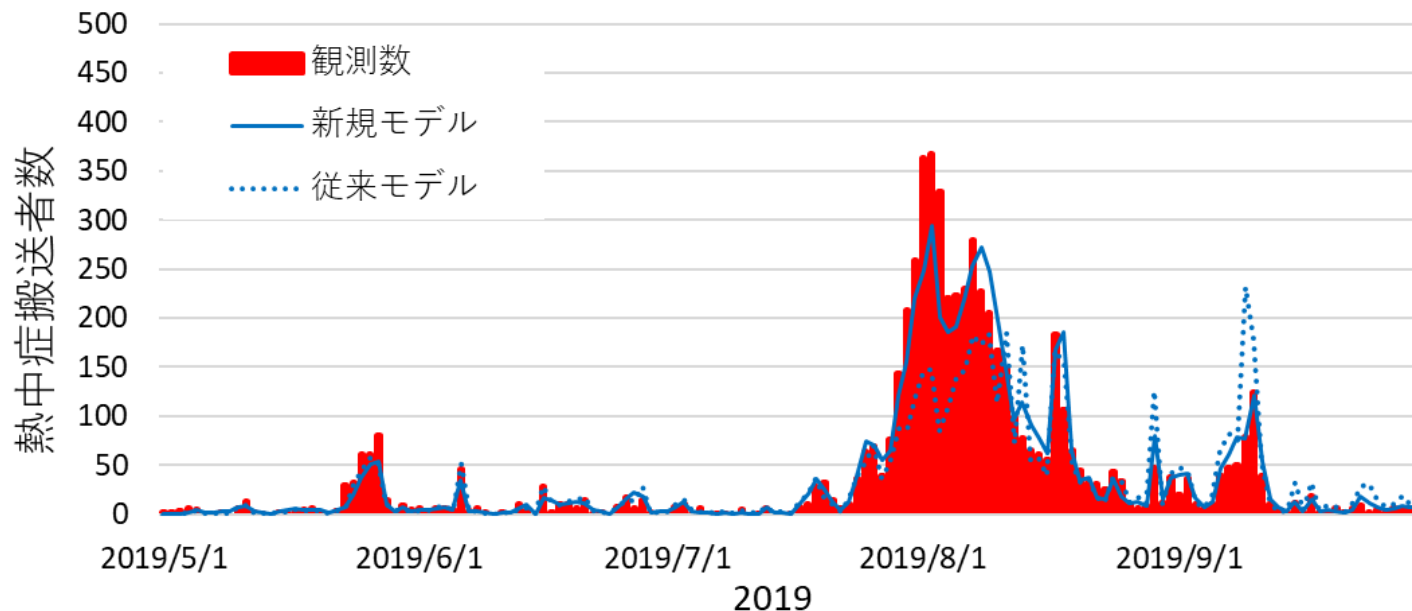


2. 気候変動による暑熱・健康等への影響に関する研究

■ 実施内容

④ 熱中症搬送者数に関する研究

- 47都道府県を対象に機械学習を用いた熱中症搬送者数モデルを構築（適応PGの一環）。
- 市区町村別（消防本部単位）の搬送者数データがあればより空間的に詳細な研究等も実施可能。



ご清聴ありがとうございました



国立環境研究所 気候変動適応センター